



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月30日

上場会社名 株式会社ダスキン

上場取引所 東

コード番号 4665 URL <http://www.duskin.co.jp/corp/index.html>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山村 輝治

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 鶴見 明久

TEL 06-6821-5071

四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	127,965	0.9	6,268	△20.6	7,596	△18.4	4,222	△22.1
25年3月期第3四半期	126,866	△2.9	7,896	0.8	9,309	0.4	5,419	76.5

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 6,443百万円 (4.5%) 25年3月期第3四半期 6,165百万円 (108.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	67.32	—
25年3月期第3四半期	84.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	200,356	154,739	76.6
25年3月期	202,375	152,811	75.1

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 153,490百万円 25年3月期 151,891百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
26年3月期	—	40.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	20.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成26年3月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当 20円00銭 記念配当 20円00銭

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	170,000	1.1	6,300	△31.5	7,800	△29.3	4,400	△27.8	70.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料P.4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご確認ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	64,994,823 株	25年3月期	64,994,823 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	2,415,537 株	25年3月期	1,913,819 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	62,730,224 株	25年3月期3Q	64,225,253 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

当社は、平成25年6月24日付で500,000株の自己株式の取得を行っております。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当第3四半期末現在の発行済株式数(自己株式を除く)により算定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日～平成25年12月31日)の我が国経済は、政府による各種経済政策を背景にして企業収益に改善が見られる等、全体としては回復基調で推移しました。その一方で、原材料価格の高騰や消費税率引き上げの決定等、先行きの不透明感は払拭できない状況が続いております。

このような環境の中で、創業50周年を迎えた当社は、期初より、これまでの感謝を込めた謝恩活動をフランチャイズ加盟店と一丸となって展開すると共に、一人でも多くの方に当社の商品・サービスをご利用いただくべく、“仕組みの改革”を推し進めており、中期経営方針の基本方針に沿った取り組みを継続しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は1,279億65百万円(前年同期比0.9%増)となりました。一方、同期間の利益面につきましては、フードグループが大幅な減益となり営業損失を計上したこと等により各段階で減益となり、連結営業利益は62億68百万円(前年同期比20.6%減)、連結経常利益は75億96百万円(前年同期比18.4%減)、連結四半期純利益は42億22百万円(前年同期比22.1%減)となりました。

<セグメント毎の状況>

①クリーンケアグループ

清掃関連用具のレンタルや清掃美化関連のサービスを手掛けるクリーン・ケア事業は、家庭市場、事業所市場とも厳しい状況が続いており、前年同期の売上高を下回りました。

家庭市場においては、普段ご自宅ではなかなかお会いできない方に対して、ショッピングセンター等のお出掛け先で当社商品を紹介する「オタメシ祭り」を全国各地で開催しました。従来商品より高機能でスタイリッシュなフロアモップ「L a L a」、ハンディモップ「s h u s h u」、集めたゴミやホコリを吸い取る置き型式掃除機「ダストクリーナー」の3点を組み合わせた“お手軽本格おそうじ”を中心に、実際に使ってみていただいて、ホコリの取れ方や使い勝手等を体感していただくこの催しは非常に盛況で、これら3点のレンタル売上高は順調に増加しました。その他には、キャラクターデザインを採用した台所用スポンジ、白木や畳等でも使用可能な床用モップの新商品スタイルフロア「S a l a l a」等も好評を得て順調に推移しました。更には、既存の洗剤等を上品で高級感溢れるものに改良したローズシリーズを年末恒例の掃除道具セット「くらしキレイBOX」にも採用し、年末の企画商品とセット販売することで、女性の共感を得て売上高が増加しました。しかしながら、ハンディモップ等の売上高が減少し、モップ商品全体では売上高が減少した他、浄水器等も低迷し、家庭用ダストコントロール商品全体では前年同期の売上高を下回る結果となりました。一方、エアコンクリーニング、台所や浴室等の水周りクリーニング、家事おてつだいサービス等の家庭向けの役務提供サービスにつきましては、依然として順調に推移しました。

数年低迷が続いている事業所市場は、清掃用具レンタルに清掃サービスや害虫駆除、衛生管理サービス等を加えたオーダーメイドの総合提案を繰り返し行う地道な営業に引き続き注力しました。更に、営業活動を専門に行う“営業拠点”の設置に着手しました。フランチャイズ本部である当社とフランチャイズ加盟店が一体となった営業体制を構築し、繰り返し訪問することでお客様との関係性を強化することに力点を置いた活動に取り組みしましたが、主力商品であるマット商品をはじめ、ほぼ全てのダストコントロール商品の売上高が前年同期を下回りました。しかしながら、害虫駆除サービス等が順調に推移した事業所市場向けの役務提供サービスにつきましては、前年同期の売上を上回りました。

以上に、介護用品レンタル、イベント受注が好調に推移したレントオール事業及びその他の事業を加えたクリーンケアグループ全体の売上高は844億65百万円(前年同期比0.6%増)となりました。一方営業利益は、マット新商品の原価が先行したこと等で、114億5百万円(前年同期比0.1%減)となりました。

②フードグループ

ミスタードーナツ事業は、ブランド価値を向上させることに集中して取り組み、前年同期の売上高を上回りました。4月には今まで以上に風味を高めるオイルを開発・導入し、同時に「オールドファッション」等の人気定番ドーナツの生地をリニューアルすると共に、ドーナツをコーティングするグレーズ(砂糖蜜)も一新して「TRY! NEW MISO!」と題したプロモーションを実施しました。更に9月には、豆の品質・焙煎方法にこだわり、よりおいしくなった「ミストオリジナルローストコーヒー」を発売しました。また、発売から10年を迎えたボン・デ・リングの10周年企画商品の発売、旬の素材を活かした季節感溢れる商品やキャンペーンの展開、或いは、カルピス株式会社等有名企業とのコラボレーション商品等、話題性を喚起する取り組みにも注力しました。6種の一口サイズドーナツを6個、18個、30個入りの専用容器に詰めあわせた「ミストビッツ」は、家族や友達同士等大人数で和気あいあいと食べていただくというドーナツの新しい食べ方提案が話題を呼び、その後も季節毎に変わるバリエーションが支持を得ております。

以上に、前期7月より連結を開始した蜂屋乳業株式会社及びその他のフード事業を加えたフードグループ全体の売上高は356億45百万円(前年同期比1.0%増)となりました。一方営業利益は、小麦等原材料価格高騰の影響に加え、「TRY! NEW MISO!」による宣伝広告費の増加等により、1億37百万円の営業損失(前年同期は営業利益11億43百万円)となりました。

③その他

海外のミスタードーナツ事業は、タイ、フィリピン、マレーシアは好調に推移したものの、不採算店をクローズし店舗数が減少した台湾、中国（上海）、韓国の売上が減少した結果、合計では前年同期の売上を下回りました。

海外のクリーン・ケア事業は、展開している3カ国のうち、台湾、韓国につきましては順調に推移しました。中でも台湾は、ダストコントロール事業と役務提供サービスの相乗効果で順調に売上が増加しました。しかしながら、事業所市場の売上が低迷した中国（上海）は、前年同期の売上を下回りました。

以上に、リース事業等を営むダスキン共益株式会社等の関係会社を加えた、その他全体の売上高は78億55百万円（前年同期比3.0%増）、営業利益は2億41百万円（前年同期比14.9%減）となりました。

なお、11月8日にフィリピンを襲った台風30号では、現地のミスタードーナツ28店舗が被災したものの、売上全体に占める割合は小さく、当社業績への影響は極めて軽微であります。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産残高は、2,003億56百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して20億18百万円減少しております。その要因は、投資有価証券が75億5百万円、受取手形及び売掛金が15億81百万円増加したことに対し、短期資金運用等の有価証券が79億99百万円、繰延税金資産（固定）が11億40百万円減少したこと等であります。

負債残高は456億16百万円となり、前期末と比較して39億47百万円減少しております。その要因は、未払法人税等が16億79百万円、賞与引当金が16億31百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,547億39百万円となり、前期末と比較して19億28百万円増加しております。その要因は、四半期純利益42億22百万円と剰余金の配当37億64百万円との差引により利益剰余金が4億58百万円、その他有価証券評価差額金が19億57百万円増加したことに対し、自己株式の取得により9億8百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の業績予想につきまして、足元の業績動向を踏まえ、下表のとおり修正いたします。

①平成26年3月期 連結業績予想数値の修正（平成25年4月1日～平成26年3月31日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	173,000	6,300	7,800	4,400	70円31銭
今回発表予想（B）	170,000	6,300	7,800	4,400	70円31銭
増減額（B－A）	△3,000	—	—	—	—
増減率（%）	△1.7	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （平成25年3月期）	168,163	9,197	11,027	6,092	95円15銭

②平成26年3月期 個別業績予想数値の修正（平成25年4月1日～平成26年3月31日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	148,000	3,400	6,400	3,900	62円32銭
今回発表予想（B）	145,000	3,400	6,400	3,900	62円32銭
増減額（B－A）	△3,000	—	—	—	—
増減率（%）	△2.0	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （平成25年3月期）	145,275	6,399	9,446	4,995	78円01銭

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,255	19,948
受取手形及び売掛金	10,366	11,948
リース投資資産	1,782	1,620
有価証券	13,998	5,999
商品及び製品	6,203	6,806
仕掛品	175	155
原材料及び貯蔵品	2,133	1,865
繰延税金資産	2,609	1,631
その他	2,684	3,156
貸倒引当金	△46	△63
流動資産合計	59,162	53,068
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	42,138	41,571
減価償却累計額	△24,262	△23,850
建物及び構築物(純額)	17,876	17,720
機械装置及び運搬具	23,624	23,579
減価償却累計額	△17,247	△17,328
機械装置及び運搬具(純額)	6,376	6,251
土地	24,231	24,061
建設仮勘定	279	736
その他	13,683	12,999
減価償却累計額	△9,328	△9,494
その他(純額)	4,355	3,505
有形固定資産合計	53,120	52,274
無形固定資産		
のれん	688	627
その他	7,788	6,796
無形固定資産合計	8,477	7,424
投資その他の資産		
投資有価証券	67,684	75,189
長期貸付金	108	13
繰延税金資産	5,147	4,006
差入保証金	7,498	7,276
その他	1,385	1,303
貸倒引当金	△209	△201
投資その他の資産合計	81,614	87,589
固定資産合計	143,212	147,288
資産合計	202,375	200,356

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,975	7,213
短期借入金	—	33
1年内返済予定の長期借入金	99	80
未払法人税等	2,066	387
賞与引当金	3,362	1,730
ポイント引当金	1,292	675
資産除去債務	2	13
未払金	6,229	5,749
レンタル品預り保証金	10,326	10,588
その他	4,443	3,703
流動負債合計	34,798	30,177
固定負債		
長期借入金	89	—
退職給付引当金	13,284	14,032
債務保証損失引当金	11	1
資産除去債務	592	585
長期預り保証金	748	752
長期未払金	37	37
その他	0	29
固定負債合計	14,764	15,439
負債合計	49,563	45,616
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	10,841	10,841
利益剰余金	132,222	132,680
自己株式	△3,092	△4,000
株主資本合計	151,323	150,873
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	943	2,900
繰延ヘッジ損益	△3	0
為替換算調整勘定	△371	△284
その他の包括利益累計額合計	568	2,616
少数株主持分	919	1,249
純資産合計	152,811	154,739
負債純資産合計	202,375	200,356

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	126,866	127,965
売上原価	72,069	73,088
売上総利益	54,796	54,877
販売費及び一般管理費	46,900	48,608
営業利益	7,896	6,268
営業外収益		
受取利息	698	709
受取配当金	201	220
設備賃貸料	90	83
受取手数料	218	178
営業権譲渡益	131	11
雑収入	366	389
営業外収益合計	1,707	1,593
営業外費用		
支払利息	3	2
為替差損	40	7
持分法による投資損失	64	99
支払補償費	65	101
賃貸借契約解約損	33	0
雑損失	87	54
営業外費用合計	294	266
経常利益	9,309	7,596
特別利益		
固定資産売却益	0	6
投資有価証券売却及び償還益	939	—
その他	97	14
特別利益合計	1,037	20
特別損失		
固定資産売却損	3	37
固定資産廃棄損	118	84
減損損失	67	24
投資有価証券評価損	706	—
その他	17	1
特別損失合計	912	147
税金等調整前四半期純利益	9,433	7,469
法人税等	3,962	3,110
少数株主損益調整前四半期純利益	5,470	4,358
少数株主利益	51	135
四半期純利益	5,419	4,222

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,470	4,358
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	657	1,954
繰延ヘッジ損益	2	△0
為替換算調整勘定	22	89
持分法適用会社に対する持分相当額	10	40
その他の包括利益合計	694	2,084
四半期包括利益	6,165	6,443
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,104	6,271
少数株主に係る四半期包括利益	60	171

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	83,954	35,282	7,629	126,866	—	126,866
セグメント間の内部売上高 又は振替高	720	10	1,874	2,604	△2,604	—
計	84,674	35,293	9,503	129,471	△2,604	126,866
セグメント利益	11,413	1,143	284	12,841	△4,945	7,896

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△4,945百万円には、セグメント間取引消去△8百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△4,936百万円が含まれております。

3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「フードグループ」セグメントにおいて、平成24年5月に蜂屋乳業株式会社を子会社化したことに伴い、当第3四半期連結累計期間では404百万円のものれんが発生しております。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	101	40	—	—	141
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	326	364	—	—	690

(注) 当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成24年5月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高364百万円(フードグループ)、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高270百万円(クリーンケアグループ)及び平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション(現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合)のものれん残高31百万円(クリーンケアグループ)等であります。

(重要な負のものれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	84,465	35,645	7,855	127,965	—	127,965
セグメント間の内部売上高 又は振替高	697	6	2,038	2,742	△2,742	—
計	85,162	35,651	9,893	130,708	△2,742	127,965
セグメント利益又は損失(△)	11,405	△137	241	11,509	△5,240	6,268

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△5,240百万円には、セグメント間取引消去13百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△5,254百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、のれんのコに重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんのコ当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	104	62	7	—	174
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	337	290	—	—	627

(注) 当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高326百万円(クリーンケアグループ)と平成24年5月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高283百万円(フードグループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。